

R-18
adult only

SPRING FRAGRANCE

PART 2

LALIBERTE









おおお…
これは中々…
だけど舌使いは
まだまだじゃな

そうそう
乳房はもっと寄せろ

めまいがするほど
強くて汚い匂い…



下の玉も
忘れるな

うむ…
呑み込みが早いのが

ハハハッ
教え甲斐があるのう



手を休めるな
ちゃんと上下に動かせ



イモコ
李夢龍か…
くくくつ…



はあー♡

既に合格しているとしても
わしと張り合いたければ

あゝ

寛大な気分になっ
てしまおうのう

だけど
お前の乳房に
包まれると

くちゅん

わしがその気になれば
その若造を不合格にするのも
容易いこと

んぎゅん

くちゅん

御史※の馬牌※くらいは
持つてこないと
話にならないじゃろう

ああん

ぐゅん

ぐゅん

あ

あ

さあ
わしの子種じゃ
受け取れイ!!

ぐゅん

※御史:王の特命を受けた隠密検察官
※馬牌:御史の証

二年も戻っていない
ということとは
落第し続けている
ということじゃろうな

旦那様なら必ず
成し遂げて下さる

さあ
口を開ける

全部飲め

何年かかろうと...
必ず...

無駄な希望は
捨てるのが
身のためじゃ

モンミン
夢龍の記憶は徐々に
お前の中から薄れてゆき

肉欲だけが残る
じゃろうからな

体は汚されても...

旦那様への...
想いだけは...

はあ
ぐゅるつ
あ

オゴツ

オゴツ

オゴツ

ハア
ハア
ハア



怪しからん
牝穴だ

あん♡

内心気になって
仕方ないんじゃないろう

股を開け男を迎え入れる
その感覚がのう

男根を擦れるだけで
濡れ濡れだというのに
よく言えたものじゃのう

男根が欲しいと

我慢…

しなきや…

ほら、口にして
はつきり言って
見たらどうじゃ

ああん♡

はあ♡

陰核が膨れ上がったとる
男根を啜えただけで
交尾の準備が整っておるとは

ち、違います…
そんなことは…!!

うっ…また…
前みたい…

我慢…



どうか…中に…
入ってくださいませ

どうか…お許してください

私の不貞を…

欲しいでござんす…

…旦那様…

男根が…

ドクン

ドクン

ドクン

やめ…!!

クハハハハッ これは
予想以上の一品じゃのう

痛…痛いです!!

おお…
いい締め具合じゃ…!!

い、痛っ…!!

ズブズブ…

ギニイッ♡

大きすぎて…
中が火傷しそう…

うっっ…
うっっ…
苦…しい…

あ
あ
あ

じゅるーっ

締めりがどんどん
良くなっている…

じっとしてわしの形を
感じてみるといい

はあ

奥の方がどんどん
わしに慣れていくのが
分かるじやろう？

本番が始まる前に
わしの形、重さ、
そして温もりまで

全部覚えるのじゃ

つまり…

あ
あ

じゅるーっ

はあ

はあ



...

今出発しても一か月は
掛かるだろうに...
船賃はちゃんと
用意してください

わしの専用になる
ということじゃ
くくくっ

女あ♡

痛っ...!

痛い...
痛いでジレンマス

あ♡

あん♡

お前の牝穴が
わしの男根を
啜えているのが
見えるか?

さあ
頭を上げて
見てみるが良い

感じる...
府使様のものが...
中を搔き
回しているのが...!

うむ...!
締め付け方が
分かってきた
ようじゃのう!!

はあー♡

「こんな感覚...
変...
息...苦しい...!!

安心せい
慣れるまで何回でも
付き合ってやろう

あぁ♡♡

あん♡

パンパン

痛みが徐々に
快楽に変わって
行くのが分かるか？

あん♡ん♡

ほん♡

時の流れを
忘れてしまふほど

気を失って
取り戻すことを
何度も繰り返し

府使様はそれからも
まるで淫欲の獣のように
私の中を掻き回し続けました

パンパン

あぁ♡

そしてその日から
府使様は…

ん♡

ずっとずっと府使様は
私の身も心も絶え間なく
貪り続けたのです

旦那様との思い出の場所を
教えると仰いました

あ♡

ん♡



気が付けば私はいつの間にか
次々と旦那様との思い出の場所で
府使様に可愛がられるようになり



旦那様との幸せな日々を
思い出す度
罪悪感と羞恥心の
大波に襲われるようになり
ましたが

同時にそれはすく〜…
興奮してしまう
経験でした

パン
パン

パン

パン

それから…
府使様の仰った通り…
府使様の男根に
慣れるようになり…

痛みより…
心地いい快感を
覚え始めました

あ♡

ん♡

あ♡

あ♡

パン

耳の裏や乳首…陰核に
膣の奥の気持ちいい所まで

その全てが
目覚めさせられる感覚は
実に素晴らしい快感でした

自分で動いてみる
どんな気分じゃ？

とても…
気持ち良くて…!!

少しづつ
私を蝕んで行きました

は、はいっ…
穴が…穴が
喜んでいます

あぁ♡

ふにゅっ♡

あぁ♡

あぁ♡

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

あぁ…良い…っ!!

気持ち良いです
府使様…!!

次々と襲ってくる
恍惚たる快感の波は

ハハハ♡
ハハハ♡
ハハハ♡

おっと
わしの許可無しで
達するのは許さんぞ？

もう少し慎みを
覚えるんじゃないな
くくくつ…

私が絶頂を迎える直前に
行為をやめるようになりました

府使様の男根を
求めてしまう
私自身でした

旦那様との
思い出の場所でナース

だけど…
ある日を境に
府使様は…

わがときうしているのだと
気づいてすごく悔しかったのですが
それよりももっと悔しかったのは…

ほれ
早く綺麗にせんか
今日は疲れているから
こんまでじゃ

ずぼんぽん

あま

ん

ぢやる

んんん

んんん

んんん

んんん

くははっ
すっかり上手に
なったのう

いつの間にか頭の中には
府使様との交尾だけが
浮かぶようになりました

「こうして旦那様との思い出が
一つ一つ府使様との情欲で
塗り潰されていく内に

最後に絶頂を迎えてから
もう半月が過ぎたか…
くくくっ

今日こそ必ず府使様を喜ばせて
今まで与えて下さらなかった
ご褒美を…!!!

ああ…
この男らしい雄の匂い…

穴が疼いて
仕様がないう頃じゃな

何度嗅いでも
うっとりしちゃう…

あ…最高…!

府使様…
いや、旦那様…!!

そんな…
滅相もございませぬ!!
私はいつまでも
旦那様の忠実な牝犬です!!

子を孕めと仰るならば
身籠るまで何度でも
旦那様の子種を
お受け取りします…!!

口では何とも言える
お前がわしを裏切らない
という保障がどこにある?

ああ♡

どうかこの卑しい小娘に
旦那様にご奉仕できる
機会をくださいませ!!

お願いします…

♡ 卑しい退妓の娘の分際で

一生旦那様専用の女に
なります

どうか私の体を…

♡ 操を立てるなど

♡ どうかもう一度…!!

私の牝穴の奥を…

♡ 生意気な真似をして

♡ もう一度あの快楽を
お与えくださいませ!!

もう一度掻き回して

♡ 本当に申し訳

♡ お与えくださいませ!!

♡ くださいませ

♡ ございませんでした

灯かりが?!

戻るまでこんなにも
時間が掛かってしまう
とはな…

僕たちが
将来を約束した場所…

あらー
夢龍じゃない

本当久方ぶりねー

ウオルメ
月梅?!

モリヨ
夢龍様ー
おなご
女子が必要では
ありませんか?
じゅうりゅう
十両でお相手
しますよ?

態度が違いすぎる
何があったんだ?

長旅で疲れている
でしよう?
私たちが御持
て成ししてあげ
るわ

何を企んでいる?

何の真似だ!!

チユンヤン
春香は
どこにいる!!

チユンヤン
春香は今
とーっても忙し
くてね

?!

あれが春香だと？
馬鹿を言え!!

パン
パン
パン

ん
ん
ん

あ
あ
あ

あ

ほら
あそこに春香が
見えるじやろう？

どうやら今日は
府使様の子を孕む
つもりらしい

もう何時間も
休まずに
腰を振っているのだから

バチユ
バチユ

ん
ん
ん

バチユ
バチユ

ああ……いい……!!
気持ちいい……!!

太くて……
大きくて……
気持ちいい!!

春香があんな……
あんな下品な声を出すはずが……

今まで何度も
手紙を送ったのに
返事が全くなかった!!
春香は今どこにいる!!

オオツ♡
オオツ♡
オオツ♡
パン
パン
オツ♡
オツ♡
オツ♡
パン
パン

あら、ちようど今
もう一度子種を
頂いたようだね

嘘だ!!
あんなのが
春香なはずがない!!

もう遅い

私からの最後の忠告よ

酷い目に遭う前に
立ち去るのが身のためよ

まあだ私が全部
燃やしていることに
気付いてないようだね

くっ!!

水ぼらしい身なりを見ると
科挙にも落ちたんでしょう?
没落両班の倅のくせにね

それでよく
帰ってくる
勇気が出せたものね
素直に感心するわ

騒々しいのう

キーン...

ほれ
お前が切実に待っていた
夢龍モンリウが帰ってきたようだぞ？

挨拶くらいしてやれ

オゴッ♡
オゴッ♡
オゴッ♡

?!

陰門と乳房のほくら...

間違いない...
春香だ...!!

でも...本当に...
お前なのか...?!
春香...!!

パン
パン

ニムニム!!

パン
パン

夢龍との五年より…
府使様との一か月が…
もっと大切になっちまった…

本当に…
ごめんなさい…

府使様との不貞を…
楽しみました…

一か月の間…
ずっと…毎日毎日…

耐え切れなかった…

府使様の一物に…
掻き乱されて…

夢龍…
ごめんなさい…

ああ♡

おん♡

あ♡あ♡

パン♡

パン♡

パン♡

違う…
時間を掛けすぎた
僕が悪かったんだ!!

府使様の…
女になっちまったの…

あ♡

ああ♡

ん♡

私は…もう…
すっかり…

もう少し…
もう少しだけ…

もう少しだけで
充分だったのに…!!

オ…オゴゴツ…
く…来る…!!

どうか…あなたの子宝を…
私に授けてくださいませ

ああ…嬉しいです
旦那様…

あつ…!!
行きそう…!!

感動的な再会じゃな…

ほれ
その記念にお前が欲しが
わしの子種をお前の中
ぶちまけてやる

お女ん♡

お女ん♡

おあ♡

あん♡

お♡

あ♡

あ♡

お女ん♡

もうやめろオオ!!

行くっ…
行きそうです
旦那様!!

ああ
思う存分
行けエ!!

パン♡

パン♡

パン♡

パン♡

パン♡

四か月後

堂渡堂

全く…訳が分からん…!!
未だに…!!

くくく…

そろそろ…
教えて差し上げないと
行けませんね

あれから随分
経ちましたし…

カハハハツ!!

くくく…

キキキ

本物の馬牌!!
どうしてそれを
お前が?!

ただ：私はこれから生まれるだろう
子を想って夫を守ったに過ぎません

私は：旦那様の合格を
確信していました
ずっと信じていましたから

馬牌を偽物に
すり替えるため…!!

春香の差し金で…!!

ごめんなさい

いつも理性より
感情で動く方でしたから

ウオルメ ヒヤンタン
月梅と香丹の様子が
おかしかったのは…

まさか…
あの時…!!

旦那様を騙すのは
とても簡単でした

誰にも分かってもらえず
虚しく散つてしまっても
おかしくないでしょう

たとえ濡れ衣を
着せられた
ただだとしても

偽物の馬牌で
王命を受けた御史を詐称した罪…

嘘…だ…

春香…早く
その馬牌を渡してくれ…
今でも…遅くない…

まだ…間に合う…!!

そんなに悲しまないでください
旦那様…
世間的にはもう死人同然だとしても



キーン♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

旦那様がここで寂しい思いをしないように
三人で一生見守って差し上げますから

終わり



おおお…
これは中々…
だけど舌使いは
まだまだじゃな

そうそう
乳房はもっと寄せろ

めまいがするほど
強くて汚い匂い…



うむ…
呑み込みが早いのが

ハハハツ
教え甲斐があるのう



手を休めるな
ちゃんと上下に動かせ



ハハハツ
教え甲斐があるのう



イモコ
李夢龍か…
くくくつ…

既に合格しているとしても
わしと張り合いたければ

あゝ

寛大な気分になっ
てしまおうのう

だけど
お前の乳房に
包まれると

くちゅん

わしがその気になれば
その若造を不合格にするのも
容易いこと

オサ
御史※の馬牌※くらいは
持つてこないと
話にならないじゃろう

おあん

ぐゅん

ぐゅん

さあ
わしの子種じゃ
受け取れイ!!

ぐゅん

おあん

あゝ

※御史:王の特命を受けた隠密検察官
※馬牌:御史の証

二年も戻っていない
ということとは
落第し続けている
ということじゃろうな

旦那様なら必ず
成し遂げて下さる

さあ
口を開ける

全部飲み

何年かかろうと...
必ず...

無駄な希望は
捨てるのが
身のためじゃ

夢龍モンリウの記憶は徐々に
お前の中から薄れてゆき

肉欲だけが残る
じゃろうからな

体は汚されても...

旦那様への...
想いだけは...

はあ
ぐゅるつ
あ

オゴツ

オゴツ

オゴツ

ハア

ハア

つ

つ



どうか…中に…
入ってくださいませ

どうか…お許してください

私の不貞を…

…旦那様…

欲しいでござります…

男根が…

ドクン

ドクン

ドクン

やめ…!!

クハハハハッ これは
予想以上の一品じゃのう

痛…痛いです!!

おお…
いい締め具合じゃ…!!

い、痛っ…!!

ズブズブ…

ギンギン♡♡

大きすぎて…
中が火傷しそう…

うっっ…
うっっ…
苦…しい…

あ
あ
あ

じゅるーっ

締めりがどんどん
良くなっている…

じっとしてわしの形を
感じてみるといい

はあ

奥の方がどんどん
わしに慣れていくのが
分かるじやろう？

本番が始まる前に
わしの形、重さ、
そして温もりまで

全部覚えるのじゃ

つまり…

あ
あ

じゅるーっ

はあ

はあ

...

今出発しても一か月は
掛かるだろうに…
船賃はちゃんと
用意してください

わしの専用になる
ということじゃ
くくくっ

女あ♡

痛っ…!

痛い…
痛いでジレンマス

あ♡

お前の牝穴が
わしの男根を
啜えているのが
見えるか?

さあ
頭を上げて
見てみるが良い

あん♡

感じる…
府使様のものが…
中を掻き
回しているのが…!

うむ…!
締め付け方が
分かってきた
ようじゃのう!!

はあー♡

「こんな感覚…
変…
息…苦しい…!!

安心せい
慣れるまで何回でも
付き合ってやろう

あぁ♡♡

あん♡

パンパン

痛みが徐々に
快楽に変わって
行くのが分かるか？

あん♡ん♡

ほん♡

時の流れを
忘れてしまふほど

気を失って
取り戻すことを
何度も繰り返し

府使様はそれからも
まるで淫欲の獣のように
私の中を掻き回し続けました

パンパン

あぁ♡

そしてその日から
府使様は…

ん♡

ずっとずっと府使様は
私の身も心も絶え間なく
貪り続けたのです

夢龍との五年より…
府使様との一か月が…
もっと大切になっちまった…

本当に…
ごめんなさい…

府使様との不貞を…
楽しみました…

一か月の間…
ずっと…毎日毎日…

耐え切れなかった…

府使様の一物に…
掻き乱されて…

夢龍…
ごめんなさい…

ああ♡

おん♡

あ♡あ♡

パン♡

パン♡

パン♡

違う…
時間を掛けすぎた
僕が悪かったんだ!!

府使様の…
女になっちまったの…

あ♡

おあ♡

ん♡

私は…もっ…
すっかり…